



★望洋会 会報誌★

～令和4年度 第9号～

令和4年8月

発行責任者：

望洋会会長 浅岡 厚

新年度 会長挨拶

望洋会会長 浅岡 厚



暑さ近年にたく敵しいこの頃、皆様にはますますご壮健のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より望洋会の活動に格別、ご理解とお力添えをいただき心より感謝申し上げます。

市原望洋高校に於かれましては今年度三五〇名の新入生を迎え活気あふれる学校として、また、将来に向けた教育により生徒たちが学園内外で活躍する姿を目の当たりにし益々発展していくものと心よりお慶び申し上げます。

望洋会では、新型コロナウイルスの蔓延に伴い活動を自粛して参りましたが、今年度は感染状況を注視しながらウィズコロナ・アフターコロナに向けて、徐々にでも以前同様の活動を進めていきたいと考えています。しかしながら状況によっては自粛、あるいは今までとは違った形での学校を応援する

活動へと模索しながら変えていかなくはならない事も考えられます。

何れにしましても、市原望洋高校が望む活動を展開して行きたいと思っております。

つきましては、時代に合ったより良い方向性を見出していくため、多くのご意見をお寄せいただき、皆様と協議しながら望洋会の運営に努めていく所存ですので、何とぞ倍旧のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の更なるご健勝をご祈念申し上げます。

着任挨拶

副校長 福島 章喜



大賀ハスが開花した六月末にこの原稿を書きました。久しぶりにハスの花を見て望洋に戻ってきたという実感が改めて湧いてきました。私は、望洋高校の教員として勤務したのち、昨年度まで同

じ県内にある付属浦安高校中等部で八年間主に中学生を対象に教育にあたっていました。中学生と高校生が混在した学校でしたので、中学一年生から高校三年生まで教える機会がありました。中学校の先生として理科の授業や生徒募集活動を通して多くのことを学ぶチャンスを得られました。再び、高校に戻りました。新たな気持ちで取り組んでいきたいと思えます。

私の出身地は栃木県足利市です。高校までは足利で過ごし、大学に進学後は地元から離れ今に至っています。地元で過ごした期間よりも倍の年数以上を千葉県で過ごすことになってしまいました。高校生まではこのような人生になるとは想像もしていませんでした。今は千葉県も故郷として愛着を持っています。

勤務した学校も郷里と同じ思いを抱いています。実家に戻ったような感覚で、安堵の気持ちもあり、甘えの気持ちもあり、新鮮な気持ちもあります。限られた中で、この貴重な時をじっくりと味わいたいと思います。再びよろしくお願いたします。

PROFILE



甲斐 康浩 (かい やすひろ)

身長：173cm 体重：100kg
出身地：福岡県大牟田市
生年月日：1968年4月30日（54歳）
1986年インターハイ優勝 新人体重別優勝
1987・89・90年学生優勝大会優勝
1988・90・91・92・93年体重別優勝
1991年3月東海大学体育学部武道学科卒業
1991年4月新日本製鐵（株）入社
1992年講道館杯優勝 全日本選手権3位
バルセロナオリンピック7位
2002年3月 新日本製鐵（株）退社
2002年4月 東海大学湘南校舎
2003年4月 東海大学付属福岡高等学校
2020年4月 東海大学付属甲府高等学校
2022年4月 東海大学付属市原望洋高等学校

着任挨拶

教頭 甲斐 康浩

二〇二二年四月より東海大学付属甲府高等学校より赴任いたしました。甲斐と申します。どうぞよろしくお願いたします。

昨年度まで二年間を山梨県で過ごし、慣れきたところでの転勤ということでも少し戸惑いもありましたが、新しい赴任地である市原望洋高校で再度（二〇二〇年付属福岡高校から付属甲府高校へ移動）心機一転、頑張ろうという思いで赴任してきました。更に単身赴任歴も三年目に突入し一人での生活にもだいぶ慣れてきたところです。

市原望洋高校に来て三ヶ月が過ぎ、分からないながらも、学校の状況を見て把握して、少しずつ慣れてきたところです。これから、市原望洋高校の良いところは、さらに伸ばせるように、改善していかねばいけなるところは変えていけるように、他の付属高校から来ているメリットを活かしながら、市原望洋高校がもっともっと素晴らしい学校になるよう、微力ではありますが先生方と一丸となって頑張っていきたいと思っております。

望洋会の皆様には、これから色々とご協力をお願いすることがあるかと思っておりますが、どうぞよろしくお願致します。

着任挨拶

久保寺 潤一郎

今年度より湘南校舎より異動となりました、久保寺と申します。どうぞよろしくお願いたします。出身は神奈川県秦野市ですが、これまで、清水校舎・静岡校舎・湘南校舎の3校舎で勤務経験があり、市原望洋高校が4つ目の勤務場所となります。

市原望洋高校は静岡校舎の短大では学生会会長が卒業生であったり、湘南校舎では卒業生の職員と交流があったりと親しみを感じておりましたが、四月当初は初めての初等中等教育機関、初めての千葉の生活に戸惑いもありました。しかし、3か月が経過し、市原での生活も落ち着きはじめ、週末は、趣味のサッカー観戦のためフクアリに出没し、すっかりジエフ市原・千葉のサポーターと化しています。（もし、蘇我付近で見かけましたら、お声がけください笑）

今後は、市原望洋高校と望洋会の発展に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

次頁より、しばらくお休みしていましたが「市原今昔物語」を復活掲載致しました。今回は第三回「姉崎編」となります。

市原今昔物語Ⅲ 「姉崎編」

二〇〇二年 代表役員 西村 和男

「姉崎」の地名の由来は、伝説では姉の志那斗弁命（しなとへのみこと）と弟の志那津比古命（しなつひこのみこと）が、この地で待ち合わせをしたところ姉の命が先に到着し弟を待ったことから「姉前」（あねさき）の地名が生まれ、明治になってから海岸線が内海岬のようであるため「姉崎」と改称されたといわれている。その由来のように千葉方面を背にして内房線を眺めてみると、八幡宿は内陸寄り、五井駅はやや海寄り、姉ヶ崎は限りなく海に近づく。この三駅で唯一千葉駅から終点駅となるのが「姉ヶ崎」である。千葉発十八時九分「姉ヶ崎」の電車だ。この電車は、時刻表に掲載され、実際に走っている。

昭和の大規模埋立工事は、千葉県の形そのものを大きく変えると共に、産業の近代化政策に拍車をかけた。「高度成長無くして日本の成長・発展無し」の掛け声、その最先端の地が「姉崎」である。海岸線も含め変貌著しく、市原市青柳地区の特産品としてその名のつく「青柳（あやゆり）（ハカ貝）」は、今では幻の高級食材となった。

姉崎地区は、東京湾のほぼ真中に位置し、広大な埋立地には「京葉工業地帯」が誕生した。海岸から内陸に向かうに従い、川・平野・山間部と広がる。「姉崎（前）」は早くから歴史の表舞台に登場している。今から千年前の集落の存在が都まで届き、税の徴収が行われ、送付状にその地名が残されている。畿内地方に多いとされる「千年村」と呼ばれる「環濠集落」が、ここ市原にも存在していたので

ある。海上郡島穴郷・馬野郷がその名を歴史に残している。

周辺の「島穴神社」には、古代の都からの伝達・中継地としての公共施設である「駅」が唯一設置され、国の「屯倉」が設置されていた。「姉崎」が交通の要であり、税の管理地としての役割は、朝廷との深い関係を示すものである。律令期の役割分担が「郡本」・「国分寺周辺」と区別されていた証拠では、との意見を示す有力証拠と言われている。上総は、広大な面積を有していたため、郡司の管轄・管理は広く、自ずと権力が集中することは止むを得ない状況下ではなかったかと理解する。こうした当時の社会状況を記憶していたのが「島穴神社」・「姉崎神社」・「姉崎古墳群」である。「島穴神社」は御祭神に志那津比古命（弟）を祀り、神事を執るもさることながら、都との関係を保つ場であった。

一方「姉崎神社」は志那斗弁命（姉）を祀り、上総の平安・国家平定の祈の場としての役割が大きく、この二社は「姉崎」の地名由来の姉弟の命を祀る神社で、共通して「日本武尊」の伝承を有している。「日本武尊」の伝承は、全国各地・房総半島にも多々あるが、ここでは歴史ロマンとして聞くに止めておきたい。また、「姉崎古墳群」の中の「姉崎二子塚古墳」は、姉崎中心部に位置し、前方後円墳の型を止め、千葉県指定史跡であり、出土品の「石枕」は、国の重要文化財に指定されている。時間があったら、この二社・古墳群を散策してみてもどうだろうか。

また、「鎌倉殿十三人」で脚光を浴びた「上総介」は平安初期には、更級日記の作者の父「菅原孝標」、平安末期には

源頼朝の拳平を手助けしたという「平広常」が有名である。

どこに居を構え、どういう人物であったかは定かでないが、上総の大国の荘園主として、田畑や作人を管理するにはそれなりの権力なくては出来ない。中央政府と地方の関係は、今日と同様に摩擦と寛容の精神が交錯する社会ではなかったかと推察する。「姉崎」は歴史ロマンを今に伝える重要な地であることが明確である。姉崎には、今も出羽三山信仰を尊ぶ三山講・富士講・伊勢講・子安講等の組織があり、講に参加した人々の信頼関係は深く、地域における結束力となっている。この結束力が、農業生産にも表れている。「姉崎ブランド」である。大根・梨・無花果・柿・栗・ミカンと幅広く、姉崎の方々の努力と英知が形に表れてた良い例である。

「姉崎」は、古来より独立心が強く、他に委ねることなく、自ら探求する精神が育まれていると思われる。常に他地区の「先駆け」としての存在がこの地区の特徴のようである。

悠久の時を経て、一滴の水が台地を潤し、人々の生活に役立ち、やがて海に帰る。生命の営みが日々見られる所、それが「姉崎」である。

●見学他●

- ・島穴神社
- ・姉崎神社
- ・姉崎陣屋跡
- ・姉崎二子塚古墳をはじめとする古墳巡り

●お食事●

- ・ラーメン天ー
 - ・ラーメンちば宝来
 - ・イタリアン
フィオーレ
 - ・イタリア市場
ラスペランザ
 - ・和食 海 etc.
- ※ランチの手助けになれば幸いです

6月4日(土)整地作業



楠下地作業を行いました。
キレイになったら、生徒たちが
喜んで歓談をしていました♪

2022年度 行事・予定表

4月 5日(火)	入学式 (来賓自粛)	9月 9日(土)~10日(日)	研修旅行 (中止)
4月 15日(金)	代表役員会	10月 22日(土)~23日(日)	建学祭 (未定)
5月 21日(土)	望洋会総会	※日付未定	親睦スポーツ大会 (未定)
6月 4日(土)	楠下整地作業	11月 23日(水祝)	望洋会ゴルフコンペ (未定)
7月 16日(土)	合同暑気払い (中止)	3月 4日(土)	卒業証書授与式 (未定)
7月 29日(金)	代表役員会	※感染状況により延期あるいは、中止となる場合があります	

～編集後記～

春はお別れの季節と言いますが、今まで広報誌を発行するにあたり、多大なるご尽力を頂いた小林副校長が定年退職となりました。着任直後から、市原望洋高校へ新しい風を吹かせるべく、ホームページの改革や広報誌の写真提供・校閲・掲載も含め、あらゆる事に協力を頂きました。どんなに忙しい時でも、気持ちよく引き受けて下さり、毎回、迅速・丁寧に対応頂く姿から、懐の大きさと素晴らしい人柄に感銘を受けました。今まで多くの時間を生徒のために費やしてきたと思いますので、これからはゆっくりと休んで頂いた後、先生の『第二の人生』を満喫してほしいものです。

広報部一同📷

🌸つばき🌸

齊藤政道先生が付属の甲府高校へ異動されました。私事ではありますが、まさ先生は高校3年生の時の担任であり、毎日の熱々ホームルームなどから、私が成長する上で大切な事を熱心に教えて下さいました。そして、楽しい思い出のたくさんある母校へ教わった先生方がいて、共に成長を見守って下さるとい理由から、我が子2人も通いました。「学校へ行けば、先生がいる」それだけでも、大きな支えとなっておりましたし、卒業してからも定年まではいらっしゃると思い込んでおりましたので、今回の異動を聞いた時、衝撃と寂しさが込み上げてきました。しかし、「先生と教え子」の関係が終わる訳ではないので、再び市原望洋高校へ戻ってくる事を信じて、待っていようと思います。

また、寂しい別ればかりではなく、新たに素敵な先生方が赴任されたり、戻ってこられたり、事務室にも心強い方が着任されたりと嬉しいニュースもありますので、これからも感染対策をしながら、お手伝いをしていけたらと思っております。

ある卒業生より